



基礎から教えるマイホーム

絶対得する業界の常識

↑ vol.40

企業役員用住宅建築取材 VOL.4

前回までの取材では基礎工事をお届けしました。今回は、基礎断熱工事及び上棟までの躯体工事の様子をお伝えします。

■基礎断熱工事とは

基礎断熱工事とは基礎の全ての箇所に断熱材を敷き詰めて地熱を有効活用する工法です。従って、冬は暖かい室内が保たれます。夏については地熱が外気よりも低いので、床がひんやりします。まるで家が魔法瓶のように、外気にとらわれない環境を作り出します。

四季がある日本ならではの省エネ工法のひとつで、現在主流になりつつあります。



ここに断熱剤を隙間なく敷き詰めます。

■プレカット工法

「プレカット工法」とは、あらかじめ寸法どおりに木材を加工し、現場で組み立てを行う工法で、コストが安く、また、ミスも少なく、工期も短いというメリットがあり、昨今の住宅建築では主流となっています。組み立てるだけなので、ある程度の経験があれば誰でも出来る作業と思われがちですが、実際はそうではありません。

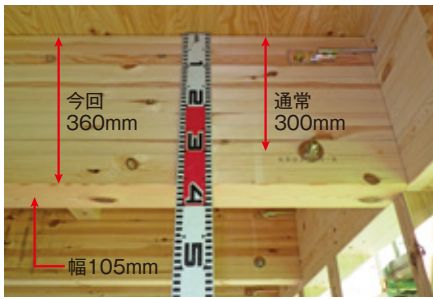
「プラモデル」でも、上手な人とそうでない人では、同じ材料、設計図を用いても出来上がりに雲泥

の差があります。例えば、ミリ単位のズレが許されない、家全体を支える梁や柱などは、ある程度の経験を持った方が作業を行わないと、家の耐久に影響が出ることもあります。

■柱や梁が重要

現場を見て驚いたのが、柱の多さと、梁の太さです。現在の建築業界では価格競争が厳しく、出来る限りコストダウンをして「安さ」を売りにしているハウスメーカーなどもあります。従って、その対象でもある柱の数や太さなども強度を保てるギリギリまでカットしているのが現状です。しかし、この現場は異なります。

安心に住めるように特に基礎や躯体工事については万全を期しています。



湯浅建設さんによる

今月の工事

(仮称)流山市西平井立体交差道路建設工事



流山市内に新たに建設される、立体交差道路の橋脚設置部分の地盤改良工事です。大地震でも橋が崩落しないための、目に見えないながらも極めて重要な工事でした。

今回の取材を通して感じたことは、「安心して永く住める家」作りは、木材の1本1本まで妥協を許してはならないということでした。梁についても、通常よりも太い木材を使用し、また、プレカット加工の木材を使って躯体工事をする際には、木材のサイズ目までしっかり見て、どの向きに強度を発揮するかを丁寧に確認していました。また、工事後はまったく見ることができなくなる基礎断熱工事も、ミリ単位で隙間なく断熱材を敷き詰める作業が行われていました。



完全注文住宅建築事例



地域に根差した総合建設業を目指して創業60年

一貫誠実



株式会社湯浅建設

千葉県知事 登録 第1-1203-7620号 / 千葉県知事許可(特-22)第1298号

湯浅建設

検索

月刊ハロー！取材記事のバックナンバーも掲載中！

お見積もり無料!

お気軽にお問い合わせ下さい!

TEL.047-387-2281 (代表)

〒270-2253 千葉県松戸市日暮5-25
http://www.yuasakensetu.co.jp/



リフォーム事例



CONSTRUCTION